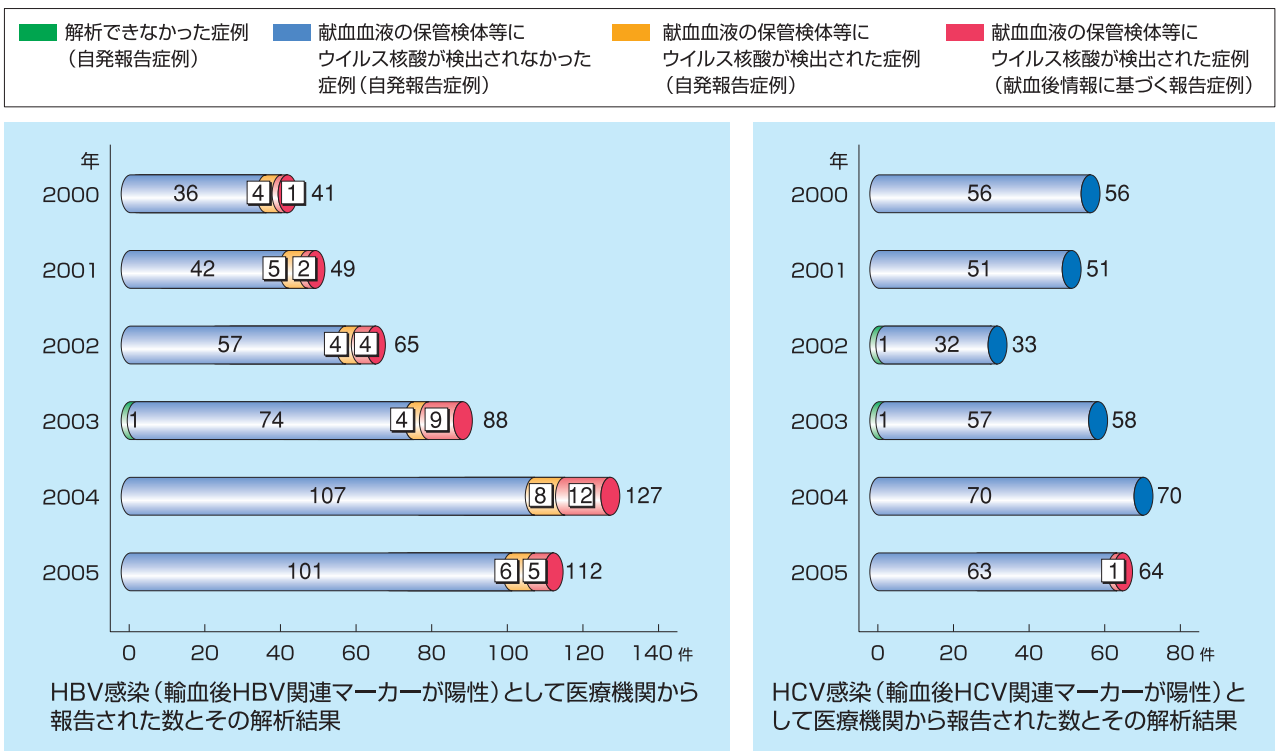


## 献血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出された症例 -2005年-

輸血によるウイルス等の感染が疑われ、2005年に医療機関から赤十字血液センターに報告された症例(自発報告)及び献血後情報に基づく遡及調査を行った症例の中で、献血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出されたものは、HBV 11例\*、HCV 1例、HEV 1例、ヒトパルボウイルスB19 3例でした。また、細菌感染が疑われた症例の中で、当該製剤(FFP)からブドウ球菌属が検出されたものが1例ありましたが、患者の血液培養の結果が陰性であり、感染は特定できませんでした。\* 献血者は10名

## 輸血による感染の疑いとして赤十字血液センターに報告された症例及び献血後情報への対応症例の件数とその解析結果【HBV・HCV】 -2000~2005年\*-

\*1994~1999年までの件数については輸血情報No.84を参照してください



## 症例概要 (献血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出された症例) -2005年-

### 【HBV】

○自発報告：輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤* (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 [ ]:輸血までの期間	輸血後の検査結果** [ ]:輸血からの期間	ALT		経過			
							最高値 (IU)	最高値までの期間	HBV DNA	HBs 抗原	HBs 抗体	HBc 抗体
1	血友病A	FFP (2004.6)	20代	男	HBs抗原 - [5日]	HBs抗原 + [10週]	2795	11週	+	+	-	+
2	腎細胞癌	FFP (2004.7)	50代	女	HBs抗原 - [4週]	HBs抗原 + [11週]	28	1日	+	+	-	+
3	ユーイング肉腫	RC-M・A・P (2004.11)	10代	女	HBs抗原 - [4日]	HBs抗原 + [22週]	2812	21週	+	+	-	+
4	急性白血病	FFP (2004.6)	40代	女	HBs抗原 - [1週]	HBV DNA + [30週]	1699	31週	+	-	+	+
5	骨髄異形成症候群、急性骨髄性白血病	Ir-PC (2005.3)	60代	男	HBs抗原 - [4週]	HBs抗原 + [16週]	120	22週	+	+	-	-
6	直腸癌	FFP (2004.10)	50代	女	HBs抗原 - [2週]	HBs抗原 + [24週]	451	27週	+	+	-	-

\*保管検体等にウイルス核酸が検出された献血血液の種類

\*\*医療機関での検査結果(陽性確認日)

●献血後情報：献血血液のスクリーニング検査の陽転化情報に基づく遡及調査により医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤※ (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 [ ]:輸血までの期間	輸血後の検査結果** [ ]:輸血からの期間	ALT		経過			
							最高値 (IU)	最高値までの期間	HBV DNA	HBs 抗原	HBs 抗体	HBc 抗体
7	骨髄異形成症候群	Ir-PC (2004.8)	60代	女	HBs抗原 - [6日]	HBs抗原 + [12週]	◆	◆	+	+	-	-
8	内頸動脈狭窄症	Ir-RC-M・A・P (2004.10)	60代	男	HBs抗原 - [2日]	HBs抗原 + [31週]	◆	◆	+	+	-	+
9	出血性胃潰瘍	RC-M・A・P (2005.4)	60代	男	HBs抗原 - [0日]	HBV DNA +、HBs抗原 + [20週]	◆	◆	+	+	-	-
10*	S状結腸癌	RC-M・A・P (2004.2)	50代	男	HBs抗原 - [2週]	HBV DNA +、HBs抗原 + [93週]	881	40週	+	+	+	+

\*患者検体と保管検体等のウイルス相溶性が確認できなかった症例 ◆ALTの上昇がない、または比較データがない症例

●献血後情報(自発報告症例(No.1)の追跡調査)：自発報告症例(No.1)の同時製造製剤を供給した医療機関から報告された症例

11	骨髄異形成症候群	Ir-RC-M・A・P (2004.6)	50代	男	HBs抗原 - [176週]	HBV DNA +、HBs抗原 + [33週]	62	9週	+	+	-	+
----	----------	----------------------	-----	---	----------------	-------------------------	----	----	---	---	---	---

[HCV]

●献血後情報：献血血液のスクリーニング検査の陽転化情報に基づく遡及調査により医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤※ (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 [ ]:輸血までの期間	輸血後の検査結果** [ ]:輸血からの期間	ALT		経過	
							最高値 (IU)	最高値までの期間	HCV RNA	HCV 抗体
1	骨髄異形成症候群	Ir-RC-M・A・P (2004.4)	80代	女	HCV抗体 - [25週]	HCV抗体 + [15週]	407	16週	+	+

[HEV]

●献血血液の研究的NAT陽性情報に基づく調査により医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤※ (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 [ ]:輸血までの期間	輸血後の検査結果 [ ]:輸血からの期間	ALT		経過	
							最高値 (IU)	最高値までの期間	HEV RNA	HEV 抗体
1	狭心症	Ir-PC (2005.9)	70代	男	HEV RNA - [8日]	HEV RNA + [10日]	972	9週	-	IgG + IgM +

\*上記症例は、輸血10日後にウイルスが検出され、16週後に検出限界以下となった。また、IgG抗体及びIgM抗体は輸血8週後に陽転を確認した。

[ヒトパルボウイルスB19]

●自発報告：輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤※ (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 [ ]:輸血までの期間	輸血後の検査結果** [ ]:輸血からの期間	献血者情報	
							B19 DNA	B19 抗体
1	Hairy cell 白血病	RC-M・A・P (2005.5)	40代	男	N.T.	B19 DNA + [11日]	+	IgG + IgM +
2	急性骨髄性白血病	Ir-PC (2005.6)	50代	男	B19 DNA - B19抗体 (IgG -, IgM -) [3週]	B19 DNA + B19抗体 (IgG +, IgM +) [3週]	+	IgG - IgM +
3	前置胎盤 切迫流産	Ir-RC-M・A・P (2005.5)	30代	女	B19 DNA - B19抗体 (IgG -, IgM -) [0日]	B19抗体 (IgM +) [12日]	+	IgG + IgM +

\*保管検体等にウイルス核酸が検出された献血血液の種類  
\*\*医療機関での検査結果(陽性確認日)  
N.T.:Not Tested

\*上記3症例は、骨髄抑制、赤芽球ろろ、発疹などの症状を認められたが、その後すべて回復している。

\*上記3症例の患者検体及び保管検体から検出されたウイルスの相溶性(一部の領域)を確認した結果、それぞれの症例ですべて一致した。  
なお、ヒトパルボウイルスB19は、一般的に飛沫等により感染することから輸血以外の可能性も考えられる。

核酸増幅検査(NAT)の実施状況【1999年7月～2006年8月】

献血血液(HBs抗原検査陰性、HBc抗体検査陰性、HCV抗体検査陰性、HIV-1及びHIV-2抗体検査陰性、ALT正常のもの)に対するNAT陽性数は次の通りです。

検体プールサイズ	検体数	NAT陽性数(頻度)		
		HBV	HCV	HIV
500(1999年7月～2000年1月)	2,140,207	19(約1/11万)	8(約1/27万)	0( - )
50(2000年2月～2004年8月)	24,702,784	473(約1/5万)	72(約1/34万)	8(約1/309万)
20(2004年8月～2006年8月)	10,176,852	194(約1/5万)	17(約1/60万)	5(約1/204万)

輸血用血液製剤または血漿分画製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者さんの検体(使用前後)等の提供をお願いします。  
なお、使用された製剤及び患者さんの検体は「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」を参照のうえ保存してください。

《発行元》

日本赤十字社 血液事業本部 医薬情報課

〒135-8521 東京都江東区辰巳二丁目1番67号

ホームページ <http://www.jrc.or.jp/mr/top.html>

\*お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター 医薬情報担当者へお願いいたします。